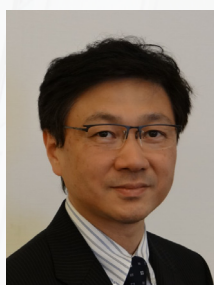


老年・高血圧内科通信 2013年冬号

A Quarterly Newsletter from
Geriatric Medicine & Hypertension

発刊にあたって

大阪大学 老年・腎臓内科学 教授 楽木 宏実



この度、老年・高血圧内科通信を年4回発行することといたしました。
現在、厚生労働省が新しく検討している総合診療専門医制度をはじめ、専門医制度の在り方も社会のニーズに合わせて変革が求められています。大学病院における医療は、高度医療、先進医療が基本ですが、総合診療的要素を持った診療科もあり、高齢者の内科診療を中心とした老年・高血圧内科はその代表と考えています。しかしながら、高齢者の総合診療でどのような患者、どのような病態を大学で診療しているのかについて、地域の先生方に十分お知らせできていないのではないかと反省しております。

本通信では、当科における具体的な診療内容をご紹介しながら、大学での老年内科の診療あるいは教育の現状をご理解いただこうと考えております。今回話題に取り上げた「ふらつき」をはじめ多種多様な老年症候群は、私たちが対象とする症候です。複数の病態や社会的要因のどの部分に介入すべきかお困りの症例でも、もつれた糸を解きほぐす診療、介護保険などの社会資源の導入によるかかりつけ医の先生方への診療支援によって、地域の先生方に必要とされる医療を行います。もちろん、従来通り高血圧診療の専門機関であることには変わりはなく、高齢者の生活習慣病全般についての総合的アプローチもしております。

高齢者の診断がつかない様々な病態や治療方針にお悩みの症例についてもご紹介ください。当科での診療だけでなく、大学内で専門診療科の支援をお願いする窓口にもなり、先生方の診療支援を行います。本通信をご覧いただき、気軽にご相談いただける診療科として当科をご認識頂ければ幸いです。

大阪大学 老年内科 ウェブサイトを是非ご覧下さい。

「老年」「大阪」で検索するとトップに出てきます。

http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/geriat/www/index_g.html

大阪大学 大学院医学系研究科

老年・腎臓内科学TOP | 関連リンク

老年・腎臓内科学 老年内科

Department of Geriatric Medicine & Nephrology, Osaka University Graduate School of Medicine

腎臓内科はこちら

HOME	概要 老年内科について	診療 診療内容について	研究 研究内容について	研修・入局 入局のご案内	学生 阪大医学部学生の方へ
■ 難治性皮膚潰瘍に対する臨床研究のご案内 ■ 平成26年度大学院入試に関する情報はこちら			■ 研修・入局のご案内 研修医(初期・後期)、大学院生募集 ■ 専門外来のご案内 難治性高血圧専門外来、もの忘れ専門外来 ■ 診療内容のご紹介 高血圧、認知症、末梢動脈疾患、高齢者糖尿病、ふらつき・転倒予防、睡眠呼吸障害、老年総合診療		

診療内容のご案内

「老年・高血圧内科はどんな診療をしているのか？どんな患者を紹介すれば良いのか？」という声を良くお聞きします。ここでは、当科が専門的に取り組んでいる診療内容を紹介します。日常診療でお困りの患者を是非ご紹介下さい。

老年総合診療

1. 体重減少や不明熱などの症状・症候に対する鑑別診断
2. 治療やケアの方針を決定と退院後診療のサポート
(保健医療福祉ネットワーク部との連携による)

高血圧

1. 二次性高血圧の診断と治療
2. 難治性高血圧の治療
3. 高血圧患者の総合的評価や教育

高齢者糖尿病

1. 糖尿病コントロール悪化時の加療と合併症精査
2. 個別性を重視した治療法・治療目標設定

末梢血管疾患

1. 閉塞性動脈硬化症、バージャー病に対する治療方針の決定
2. すでに治療中の患者に対する疼痛コントロール

認知症

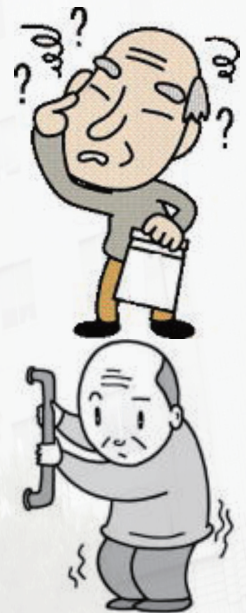
1. もの忘れ外来での認知症の診断、治療方針決定
2. もの忘れパス入院(1泊2日の認知症精査入院)の実施

ふらつき・転倒予防

1. ふらつきの鑑別診断と筋力低下に関連する諸検査
2. 「転倒予防講座」による、知識習得と予防トレーニングの指導・実践

睡眠呼吸障害

1. 簡易モニターや睡眠ポリグラフ検査(PSG)を用いた診断
2. 合併症検査と生活指導や持続陽圧呼吸(CPAP)の導入と管理指導



当科への紹介患者例 ～北摂地区の病院から～

【患者】 65歳 男性

【主訴】 ふらつき・失神

【現病歴】

45歳からふらつきを認め近医通院。201X年1・4・11・12月にしゃがみこんだ際に失神した。

失神の直前に頭重感を認めたが胸部症状はなく、意識は3分程度で回復した。

心電図で左脚ブロックを認め、ホルター心電図で上室性期外収縮を認めた。

精査加療目的にて当院紹介、入院となった。

【既往歴】 特記事項なし

【家族歴】 妹 高血圧

【嗜好歴】 喫煙30本×45年

飲酒 1合/日

【身体所見】

身長:176cm 体重:74kg BMI:23.9kg/m²

血圧:123/76mmHg(左右差認めず)

脈拍:75bpm 整

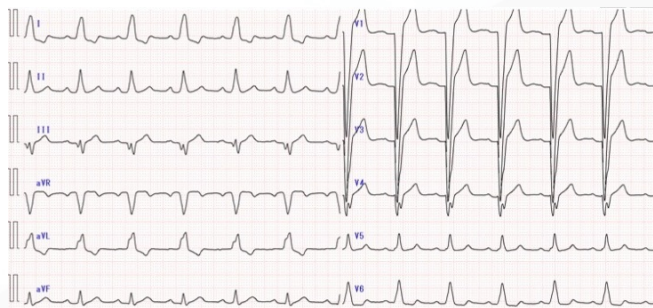
その他 特記すべき異常認めず

【血液検査・検尿】

血算・腎機能・肝機能・血糖・尿一般

甲状腺機能・下垂体機能に異常なし

【心電図】 HR 73bpm 洞調律 左脚ブロック



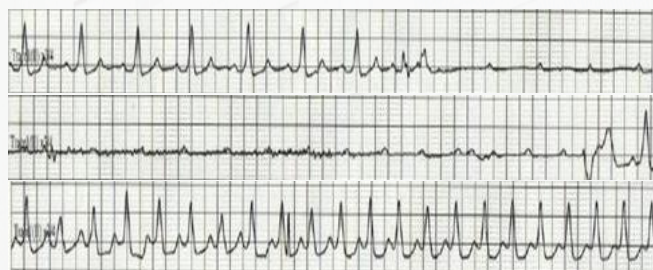
【心エコー】 著明な異常を認めず

【冠動脈CT】 著明な異常を認めず

【頭部MRI】 著明な異常を認めず

【頸動脈エコー】著明な異常を認めず

【経過】入院20日目に靴紐を結ぼうとして失神。モニター上12.4秒の完全房室ブロックを認めた。



【診断】 完全房室ブロック（両脚ブロックor房室結節でのブロック）に伴うふらつき・失神

【治療】 永久ペースメーカーの植込み

ふらつき症状を訴える患者様は外来などにたくさんおられると思います。

「ふらつき」は、自覚症状だけでなく、転倒・骨折の原因にもなります。ふらつきの原因としては、

「回転性めまいを中心とした」

○脳梗塞や脳腫瘍、脱髄疾患などの中枢神経疾患

○メニエール病や良性発作性頭位めまい症などの耳鼻科疾患

「平衡障害を中心とした」

○小脳疾患や末梢神経障害、パーキンソニズムなど

○抗不安薬や睡眠薬などの薬剤性

○筋力低下や関節の不安定性(ロコモティブ・シンドローム)

「ふらつき感を中心とした」

○うつ病や不安神経症など ○視覚異常や薬剤性

「前失神を中心とした」

○弁膜症や不整脈などの心血管疾患

○起立性低血圧

○反射性失神(神経調節性失神)



などが挙げられます。

鑑別には頭部MRI、頸動脈エコー、心エコー、Holter心電図、Head-up-tilt試験、下肢筋力検査、重心動揺検査など多様な検査が必要です。高齢者では、複数の原因が重なっていることが多く見受けられます。

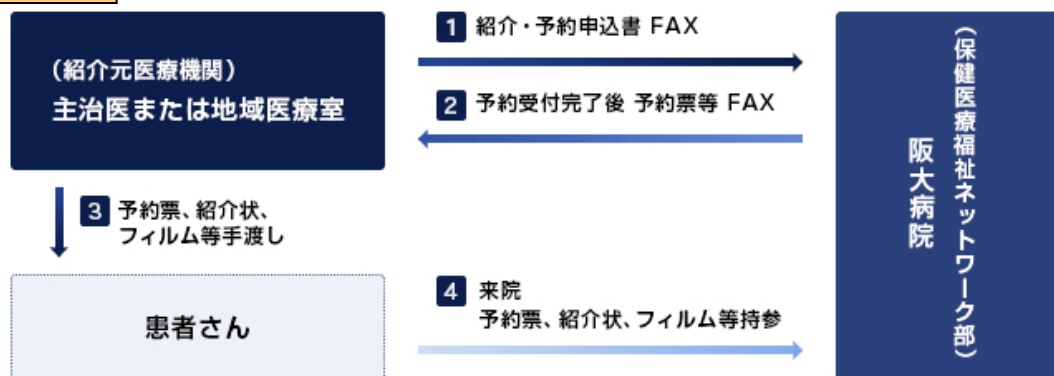
当科では、原因がはっきりしないふらつきや失神を呈する患者様の、診断・治療・指導に力を入れております。該当する患者様がおられましたら、当科への紹介を、是非ご検討下さい。

外来担当日とご紹介方法

外来担当表

		月	火	水	木	金
11診	午前	竹屋 泰	鷹見 洋一	楽木 宏実	杉本 研	山本 浩一
	午後	神出 計	伊東 範尚	楽木 宏実 14:30以降 難治性高血圧専門外来	谷山 義明	杉本 研
12診	午前	里 直行	森下 竜一		鷹見 洋一	神出 計
	午後		【もの忘れ外来】 竹屋 泰		【もの忘れ外来】 前川 佳敬	【もの忘れ外来】 小黑 亮輔
13診	午前			山本 浩一		

紹介・予約方法



1. 申し込み

「紹介・予約申込書」に必要事項をご記入の上、下記のFAX番号にFAXでお送り下さい。
予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

2. 予約票等の送付

予約受付完了後、「診療予約票・診療申込書」、「予約患者さんへ 外来受診のご案内」、「交通のご案内」をFAXでお送りします。

3. 予約票等の手渡し

「診療予約票・診療申込書」、「予約患者さんへ 外来受診のご案内」、「交通のご案内」、「紹介状(診療情報提供書)」、検査結果、フィルム(CD-ROM)等を患者さんにお渡し下さい。

大阪大学医学部附属病院 保健医療福祉ネットワーク部

TEL 06-6879-5080、FAX 06-6879-5081

受付時間 TEL:月～金 9:00～17:00、FAX:月～金 9:00～18:00(延長されました！)

紹介・予約申込方法の詳細:「阪大病院」「紹介」で検索するとトップに出てきます！

<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/institution/apply.html>

次号は、2014年春頃に発行予定です。年の瀬のお忙しい時期となりましたが、先生方の益々のご発展、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。(文責:副科長 杉本)

老年・高血圧内科医局 連絡先:電話 06-6879-3852, FAX 06-6879-3859